

埼玉親善大使レポート

小林さくら

はじめに

この度は埼玉親善大使に選んでいただきありがとうございます。オーストラリアのゴールドコーストにあるサザンクロス大学附属の英語学校に5週間の間派遣していただきました。その生活や活動について報告させていただきます。

① 現地での生活

毎朝8時半から授業が始まります。学校までは徒歩とバスで40分ほどかかるので、毎朝6時半くらいには起床し、7時半にはホームステイ先を出発していました。学校に到着し、授業では基礎的な文法の学習からスピーキングの練習、リスニング、グループ学習などを行いました。文法の学習をしたことで、曖昧になっていた表現を再確認する機会となりました。私のクラスのメンバーはほとんどが日本人で構成されていましたが、授業中には英語で会話をすることが常に要求されていたので、他の留学生とともに切磋琢磨することができました。授業は13時15分に終わり、授業が終わってからの1時間は友人とその日の宿題を行ったり、2週間に1回開催される English conversation clubに参加したりしました。このクラブでは、普段クラスが同じでない人と関わったり、他の国の留学生と話すことができたりと、コミュニティを広げることができました。放課後は、ゴールドコースト観光をすることができました。学校や家からビーチがすぐそばにあるので、ほぼ毎日海に行きました。オーストラリアの海は透明で青く、砂がサラサラでした。オーストラリアに住んでいる人は、本当に海が大好きで、朝日を見に行ったり、砂浜を散歩したりと、それぞれのやり方でリラックスしていました。また、オーストラリアにはたくさんのカフェがありました。先生や友人がおすすめしてくれたカフェをめぐることも放課後の楽しみでした。家の近くにパシフィックフェアという大型ショッピングセンターがあったので、そこで買い物を楽しみました。また、水曜日、金曜日、土曜日にはマイアミマーケットという夕方からオープンしていて世界の食事が楽しめるナイトマーケットが開かれていたので、そこで友人と食事やお酒を楽しみました。さらに、様々な国の留学生や現地の人と関わることのできるミートアップというイベントがあり、友人に誘われて参加しました。最初は緊張や不安があったけれど、同じ目標の人や、様々な年齢の人、また、日本に興味があり、来日する予定のある人など、多くの人と会話をすることができました。休日は、ムービーワールドというテーマパークやサーファーズパラダイス、カランビンワイルドライフサンクチュアリなどのゴールドコーストで定番な観光地に行きました。サンクチュアリでは、オーストラリアで有名なコアラの抱っこ体験をしました。また、パイロンベイツアーというサザンクロス大学が主催している日帰り小旅行に参加し、オーストラリアの国土最東端に行きました。この小旅行は参加が任意のものであったため、積極的に参加し、そこで出会った中国人の留学生と観光をしながら会話を楽しみました。

マイアミマーケット



カランビンサンクチュアリ

パイロンベイツアー



ムービーワールド

② オーストラリアと日本との違い、文化

オーストラリアは日本と違って朝がとても早く、夜も早いです。だいたいオーストラリアの人は5時から6時くらいには起床しています。カフェやスーパーがオープンする時間も早く、6時くらいには営業を開始しています。カフェは毎日15時くらいには閉まってしまいます。ホストファミリーの就寝時間も21時頃だったので、日本の生活とは大きく違いました。オーストラリアでの生活を通して必然的に私の生活リズムも整っていき、毎日規則正しい生活を送ることができました。オーストラリアの国民性として、いつでもリラックスしていて、フレンドリーな印象がありました。ビーチでくつろいでいる人が多く、仕事に追われる毎日ではなく、自分時間を大切にしているなと感じました。道で犬の散歩をしている人とすれ違う時や、バスを待っているときに現地の人と自然に会話ができることが多く、それが私には非常に心地よいものでした。知らない人でその場で初めて会ったとしても笑顔になれるのはとても素敵なことだと感じました。



パームビーチにて朝日



アサイー

③ 埼玉親善大使として

お世話になったサザンクロス大学に埼玉県伝統的な野菜であるくわいのクッキーをお土産としてお渡ししました。くわいは珍しく、受付の方も初めて聞いたとおっしゃっていました。私が小学生の時に給食でたびたびくわいごはんが献立に登場していて、私にとってくわいは身近に存在していたものなので、くわいを知らない海外の方々に紹介できたことが嬉しかったです。くわいがどのような味であるのか、いつ収穫されるのか、どのような場面で食べられているのかなどを伝えることができました。

また、留学期間中に日本ではひな祭りを祝う日があったので、学校の先生や受付の方に日本のひな祭りというイベントがどのようなものであるかを紹介しました。女の子の成長を願うためのイベントで、それぞれの家庭でひな人形を飾ることを伝えると、興味津々に話を聞いてくださいました。先生の中には男の子の成長を願う子供の日をすでに知っていらっしゃる方もいて、新しくひな祭りを紹介できたことも嬉しかったです。埼玉県といえば、鴻巣市にある日本一高いひな壇が有名であるので、その紹介もしました。写真を見せたところ、すごく高くてびっくりされていました。いつか実際に見てみたいと言っていました。



くわいの紹介



ひな祭りの紹介

④ お世話になった方々

私がお世話になったホストファミリーはとても雰囲気がよく、たくさん話を聞いてくださいました。今日はどんな日だったかを毎日質問して下さったので、会話をする練習になりました。ホストファミリーの子どもたちも私と積極的に関わろうとしてくれました。オーストラリア特有のベジマイトやミートパイなどの食べ物をたくさん紹介してくれました。また、一緒に海に出かけたり、お庭でトランポリンやバスケットボールをしたりなど、様々なことを一緒にやる機会がありました。そのアクティビティをしている間に会話がうまれ、私が英語を聞き取れない時にはゆっくり話してくれたり、わかりやすく言い換えてくれたりなど、たくさん心配りをしてくれました。また、語学学校の先生にも大変良くしていただきました。困ったことや悩みがあるときにはいつでも相談できる環境があり、どんな時も温かく迎え入れてくださいました。先生はいつでもフレンドリーで、たくさんコミュニケーションをとる機会がありました。

⑤ 今後について

今回の留学を通して、英語で話しかけることへの抵抗感を減らすことができました。それでも、まだ自分の英語力が完全なものではないので、話していてもうまく伝わらないことが多くあります。よりスムーズなコミュニケーションをとるために、英語学習を引き続き行いたいです。そして、英語話者の人と話すことのできる環境に積極的に参加するようにしたいです。今後の大きな目標として、長期の留学に参加することで、自分の語学力と異文化理解力を高めたいです。

今回お世話になった埼玉県への還元として、埼玉県が主催している日本語ボランティアに取り組んでみようと思います。私がオーストラリアに行って現地の人や学校の先生方にたくさんお世話になったように、今度は私が日本に来る外国人のサポートをしたいです。他にも、大学の留学生の来日サポートにも引き続き参加して、来日された方に日本に来てよかったと思ってもらえるようなサポートができるように努力したいです。

最後に

今回が初めての留学で、本当に多くのことを学び、たくさんのお話を吸収することができました。この留学を通して自分の今後についての視野も広がりました。この経験ができたのも、埼玉県が主催しているこのプログラムがなければ実現しなかったことです。また、留学することに賛成してくれた両親、語学学校の先生、友人、ホームステイを引き受けてくださったホストファミリーにも感謝しています。ありがとうございました。